

先進融合領域フロンティアプログラム

(実施期間：平成 18～22 年度)

実施機関：東北大学（総括責任者：井上 明久）

プロジェクトの概要

3 部局をテニュアトラック制度推進モデル部局として設定し、工学とライフサイエンスなどの融合分野において、世界的なレベルで先端領域の開拓ができる人材を育成する。テニュアトラックプログラム推進室を設置し、国際公募によりテニュアトラック若手研究者を公募する。本プロジェクトを、若手研究者の自立研究環境促進プログラムのパイロットプロジェクトと位置づけ、終了後に全学におけるテニュアトラック制度の普及を目指す。若手研究者の育成において、異分野との学際的融合による新分野の創成を強く意識させるため、プログラムオフィサー及びシニアメンターを配置して、広い視野を持った研究者育成を支援する。学問分野に応じた多様な人事システムのなかで、複数のキャリアパスにより、若手研究者が競争的環境で将来を見据えた研究が可能な自立的な研究環境を整備する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	b	b	a	a	b	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

研究分野の特性などを考慮して部局単位でテニュアトラック制（以下、「TT 制」という）導入を図ったこと、テニュアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）が顕著な表彰や大型の外部資金を獲得し、複数の TT 若手を自機関の教授職に採用するなど TT 若手の育成に成功したことは評価できる。しかし、TT 制による人材養成システム改革に向けた総括責任者のリーダーシップが十分には発揮されておらず、また、部局配属の TT 若手の交流を促進する施策の実施を期待する。

- ・ **目標達成度**：部局単位で PDCA サイクルを回し、TT 制導入の改善点が明らかにされていることは評価できる。しかし、TT 制の継続性を担保するための実施期間終了後の全学展開への道筋を明らかにすることが必要である。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：中間評価以降、新たな TT 若手を公募しなかったため、高い直前職自機関率、女性・外国籍研究者の未任用などの是正策が適切に実施されていない。また、初年度と 2 年度目に採用した TT 若手のテニュア審査を同時に行い、採用からテニュア審査までの年月に 1 年の差があることは、適当ではなく今後実施する TT 制において改善することが必要である。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：一部の実施部局において、大学院研究指導資格を認定し、学部レベルの講義を担当させるなど、自機関のテニュア職採用後の対応がなされていることは

評価できる。しかし、TT 若手の年次評価は行っているが中間評価は実施していないことは今後実施する TT 制において是正されることを期待するとともに、テニユア審査に合格した TT 若手を任期付きの助教として採用したことについては、早急に“安定的な職”であるテニユア職に採用することを期待する。

- **制度設計に対するマネジメント**：モデル部局による TT 制試行の考え方は理解できるものの、総括責任者のリーダーシップによる TT 制改善や全学展開の方策の一つとしての「尚志プログラム」を有効に活用することを期待する。
- **実施期間終了後における取組**：総長裁量経費による「尚志プログラム」の設置が決定されているが、諸般の事情によって実施に至っていないことは理解できる。今後、「尚志プログラム」の実施とその適切な運用によって機関全体への TT 制展開が必要である。
- **中間評価の反映**：中間評価以降に TT 若手を採用していないため、直前職自機関率の低減や女性・外国籍研究者の採用促進がなされていないものの、他の事項については概ね対応したものと評価できる。